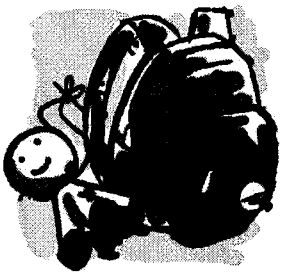
6/23(土) まいど！ 倫々号です。私も去年の9月初に継承継立させていただきました。
お陰様で何人の方もなく ごく自然に出来 今でも私は会長として仕事し、倫理の学びも
朝4時起床に実践しています。2018.6.23〜6.29
有難い事と感謝してます
幸せ運ぶアホー鳥

今週の倫理 1087号

六月のテーマ 親の子、子の親

親の思いを知ることから



え・城谷俊也

倫理研究所では、一都一府九県で「後継者倫理塾」を開催しています。

その目的は、「創業者の精神を引き継ぎ、倫理経営を正しく理解・実践し、健全な企業経営を推進する後継者の育成を図ること」、そして「倫理法人会活動を通して、人間力を培い、地域発展に寄与する人材を養成すること」です。毎年、多くの企業がこの目的に賛同し、後継者を派遣しています。

経営者の希望により派遣され、最初は仕方なく参加した後継者も、十カ月に及ぶカリキュラムを通して、企業の後継者としての覚悟を固め、塾の修了と共に新たなスタートを切ります。

Mさんも、その一人です。父親が経営する飲食店で働く中で、後継者倫理塾に派遣されました。

その飲食店は、四代続く老舗です。Mさんは、幼い頃から後継者として育てられました。最初から決められたレールが敷かれているようで、自分の人生に嫌気がさしていたMさんにとって、後継者倫理塾への参加は苦痛でしかありませんでした。

それでも、その不満は心の奥底に隠して、表面を取り繕い、ただただ塾の修了を待ちました。

いよいよ塾の修了式の日。〈後継者としての決意を述べたら、塾も終わりだ。適当にうまいことを言って終わろう。やっとこの苦痛から解放される〉という思いで、演台に立ちました。

演台に立つと、真っ先に視界に入ったのが両親でした。〈俺は自分の人生を思うように生きたい。なぜ俺は後継者なんだ！〉という積年の思いが込み上げてきましたが、父の姿を見ていると、なぜか涙が溢れてきました。そして、これまで考えたことがなかった感情が心の内に湧き上がってきたのです。

〈そういえば親父も後継者だったな……。親父はどんな思いで、会社を継いだのだろうか。そして、どういう思いで、自分にこの会社を引き継ごうとしているのだろう。この塾に派遣してくれたということは、親父はもちろん自分に受け継いでほしいと思っているのだろうな……〉

そう思った瞬間、Mさんは思わず「四代続く我が社を受け継ぎ、後世に残していきます。そして、先代をはじめとする、歴代の経営者が誇れる企業にします！」と誓っていたのです。Mさんの決意を聞き、会場は拍手の渦に包まれ、両親は笑顔で見つめていました。

その後、Mさんは決意通り、経営者として一本立ちができるよう仕事に邁進し、倫理経営の学びを深めています。そして、いつか我が子が誕生した時には、自ら継ぎたいといわれるような企業を目指しています。

親子といっても、その生き方、考え方に違いがあるのは当然でしょう。親の希望と子の希望が異なる場合も多々あります。

たとえ異なっていても、子の立場としては、頭からそれを否定するのではなく、まずは親の心を理解しようとするところから、本当の意味で自らの人生を作り上げていく一歩が始まるのです。